

相馬ゆうこの



HP



南千住 レポート

まちづくり・
くらしの情報を
とどけます

相馬ゆうこ事務所

荒川区南千住5-1-6・2階

☎・FAX 3807-4192

区議団控え室（荒川区役所内）

☎ 3802-4627

FAX 3806-9246

✉ arajcp@tcn-catv.ne.jp

araken-nan.jugem.jp

猛暑対策に～街路樹と木陰ふやそう！

「消える木陰、世界と逆行」「日本の街路樹50万本減」という新聞報道



(日経新聞より)

がSNSで話題に。パリやニューヨークなど海外の都市では猛暑対策として樹木を活かす街づくりがすすむ一方、東京や大阪などは道路が狭く、落ち葉や倒木の影響も考慮して街路樹をふやす余裕がないと指摘しています。



区内の街路樹 植替えがすすむ 区内の街路樹は2006年頃まで1,800本前後でしたが、汐入地区の防災再開発で増加。2006年1,808本→2007年2,231本に、1.2倍にふえました。2025年は2,211本、この間2,200本前後を維持していますが、樹木の種類は変化しています（右表）。

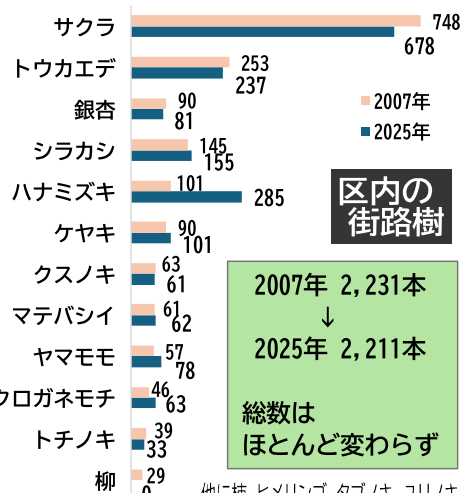


伐採されたサクラ

サクラ（約6割がソメイヨシノ）は、ここ数年老朽化で伐採がすすみ、2007年748本→25年678本に、70本（約1割）減少。ソメイヨシノから他のサクラへ植替えもあり、とくにソメイヨシノが減っています。トウカエデも減少、柳はゼロになり、南千住5丁目の「やなぎ通り」も柳からヤマボウシに。

一方でハナミズキ、ヤマモモ、クロガネモチなど増加。ハナミズキは成長が遅く剪定の費用が抑えられるとして、07年101本→25年285本に、2.8倍に。全国的にもこの30年間で3倍になっているそうです。

みどりと木陰の まちづくりを 木陰が多いほど気温が下がるとの分析もあり、樹冠被覆率（木の枝葉が地面を覆う割合）を上げたり、日陰をつくる取り組みが注目されています。荒川区の樹冠被覆率は3.2%で、23区中22番目です。現在、区の「花と緑の基本計画」改定に向け調査・検討がすすんでいます。気候変動の中で街路樹や公園、街中にみどりと木陰のまちづくりに、本気の検討を求めたい。



ララテラスとBiviの未来は…“現状維持”？

南千住駅の東側、ララテラスとBiviのこれから？

Biviの土地はUR所有、ララテラスの土地はURが7割・荒川区が3割を所有しており、それぞれ大和リース(株)と三井不動産(株)に定期借地契約で貸し出しています。

W街区の整備状況



現在「暫定利用」で、2033年度から「本格整備」の予定です。

区が実施した地域住民へのアンケートでは「今のままでよい」は15%にとどまり、「飲食店の充実」をはじめ「映画館」「入浴施設」など、さまざまな要望が出されました。「図書館」「スポーツ施設」など公共施設の充実にも期待が寄せられています。



事業者は住宅建設ありき

区は本格整備にあたり「住宅はつくらず、商業施設を中心に」との方針ですが…、昨年度に大手事業者3社と行ったヒアリングでは「商業施設のみでは収益性が低く、住宅建設を伴わないと参入が見込めない」との結果に。本格整備はララテラス、Biviの建替え・規模拡大が想定されていましたが、区はヒアリング結果をふまえ、方針は変更せず「現在の建物を計画的に修繕しながら利用を延長する」としました。今後、URと協議を行い、三井不動産(株)、大和リース(株)との再度、合意形成を目指します。

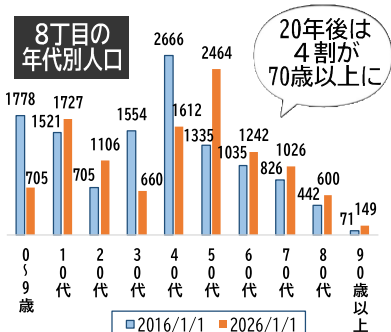


20、30年後

ララテラス、Biviともに一定規模の売上を維持しており、区は「利用延長の可能性は高い」との見込みです。今や地域にとってなくてはならない施設ですが、20年後は8丁目の人口

の約4割が70歳以上になる想定もあり、地域特性をふまえて将来をみすえた施設や周辺環境の整備が求められます。

区も地権者として、区民に必要な公共施設の検討も必要です。区民のくらし最優先に、安易な大規模商業施設と高層住宅セットの再開発にすすむことだけは止めたい。



〈法律・生活相談〉

6月の定例法律相談日は 11日(木)です

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。事務所での定例法律相談は毎月第2木曜18時から。平日の昼間に法律事務所(北千住)でも可能です。お名前と電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

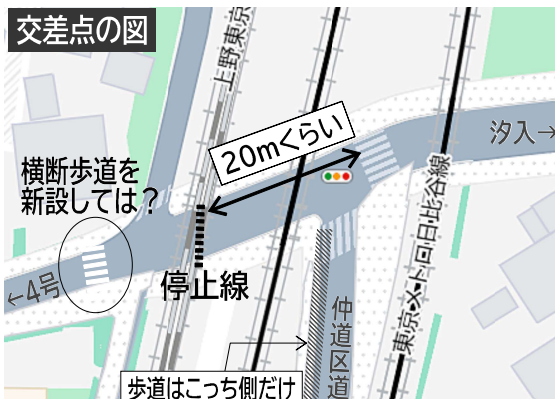
相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6・2階 ☎ 3807-4192

7丁目の危ない交差点…横断歩道の改善なるか？

南千住7丁目～汐入をむすぶ道路（補助189号線）と、線路沿いの「仲道区道」がぶつかる交差点の信号について…



国道4号側から汐入方面に向かう車が青信号の横断歩道を横切ることが多く、危ないなと思っていたのですが、よく見てみると構造上の問題も。

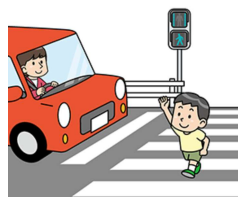


車の停止線から横断歩道まで20mほど離れているため、車が黄信号ギリギリで停止線を通過すると、横断歩道を通るころには歩行者用信号は青になり、通過する車と歩行者が接触しかねない状況に。

また、歩行者が仲道区道や駅方面との行き来の際、歩道のない場所を横断してしまうケースが少なくありません。区は横断防止にガードレールを新設しましたが、歩行者の安全のため高架橋の西側にも横断歩道がほしいとの要望もあります。

まず信号延長を 変形交差点で課題も多く警察との協議が必要ですが、地域の声を聴き安全第一で対応してほしい。まず当面の歩行者の安全確保に、歩行者用信号の赤延長など信号の時間調整ができないか、担当課とも相談しています。

みなさんも通行時はくれぐれもお気を付け下さい。



妊婦さんが
いる世帯
などへ

麻しん(はしか)のワクチン助成が始まります

前号で、麻しん(はしか)の感染状況と19歳以下のワクチン接種助成についてお知らせしましたが、成人への麻しんワクチン接種助成も始まります。対象は「19歳以上で妊娠を予定している方」とその同居者」「妊婦と同居している方」で、まず抗体検査を実施し、抗体価が低い(＝免疫がじゅうぶんでない)場合に、ワクチン接種費用を全額助成します(抗体検査も無料)。※妊娠している方は受けることができません



また、風しんについても同様の助成があり、“麻しん風しん混合ワクチン”も対象です。希望する方は医療機関へご相談下さい。助成については下記まで

【問合せ】健康推進課 予防接種係 ☎03-3802-3111(内線:3901)

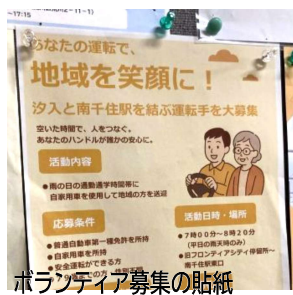
「自家用車で送迎」6月から実証運行を開始

区のコミュニティバス汐入さくらが廃止、都営バスの雨天時の臨時便も廃止され、雨天の朝、通勤・通学の人々が都営バスに乗り切れず積み残しが発生しています。区は昨年から住民による「自家用車を使った送迎」を検討、昨年11/30付のレポートでお知らせしましたが、いよいよ開始に。



バスを待つ人の列

運行は 6月から実証運行として、町会を中心に設立した「汐入地区地域交通運
有志で 営協議会」が主体となって、平日の7時～8時20分の間、希望者をフロンティアシティ前から駅東口まで自家用車で送迎。1日1台、5往復程度でボランティアの運転手4名が交代で運行します。



ボランティア募集の貼紙

利用は高齢者、 利用できるのは70歳以上の方、高校生以
子どもなどに限定 下の子ども、妊婦などに限り、会員登録が必要に。登録すると、翌日の降水確率が50%以上の場合に公式LINEで運行の有無をお知らせし、予約なしで当日並んだ順番に乗車する、とのこと。



安全対策に心配の声も

安全対策については、運転手が安全運転講習を受講、毎回アルコールチェックや車両点検などを実施し、区が移動支援サービス用の自動車保険に加入して、万が一の場合には区の保険で対応するとしています。

これまで区議会でも安全対策などについて質疑し、区は「区民の不安を解消できるよう協議をすすめる」としていました。それでも、26日の区長記者会見では、5月6日に磐越自動車道で起きたマイクロバス事故をうけて各メディアから、一般の方が他人を乗せて運転する場合の安全性について質問が相次いでいました。



移動支援 実証運行は1年間で、実績をみて本格運行するか判断するとのこと。
区の責任で 荒川区は、運転手の報酬、燃料費などの運行経費を年間約50万円助成しますが、あくまで「地元有志の取り組み」と位置づけています。助け合いは必要ですが、地域やボランティアの善意に頼るだけではなく、必要な移動支援に区の責任ある対応を求めたい。さくらバスと都営バスの充実も必要です。

ご意見・ご質問頂きました ○「ひとりで家にいると1日ひとことも口をきかない日があります。シルバーパスの補助ありがとうございます。でもさくらバスは利用しづらい、出歩く機会が減ったら健康にも影響するので、さくらバスを増やしてください」○「育休中でも学童クラブを利用できるようにしてほしい。柔軟に対応して」○「自転車規制も必要ですが、道路が狭く、迂回路が遠い。例えば“自転車担当員”などを区が配置して区民の意見を聞いてほしい」

